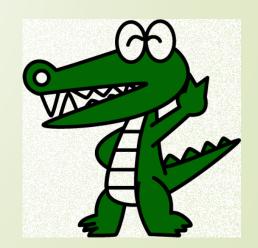
国勢調査調査票情報の雇用・労働事業への活用について

令和4年11月24日 豊中市市民協働部くらし支援課管理調整係



豊中市について

- ▶ 大阪市の北に所在する住宅都市
- 36.6km に約40万人の市民が在住



飛行機を間近で見られる千里川の土手



高校野球全国大会発祥の地



豊中市くらし支援課の業務

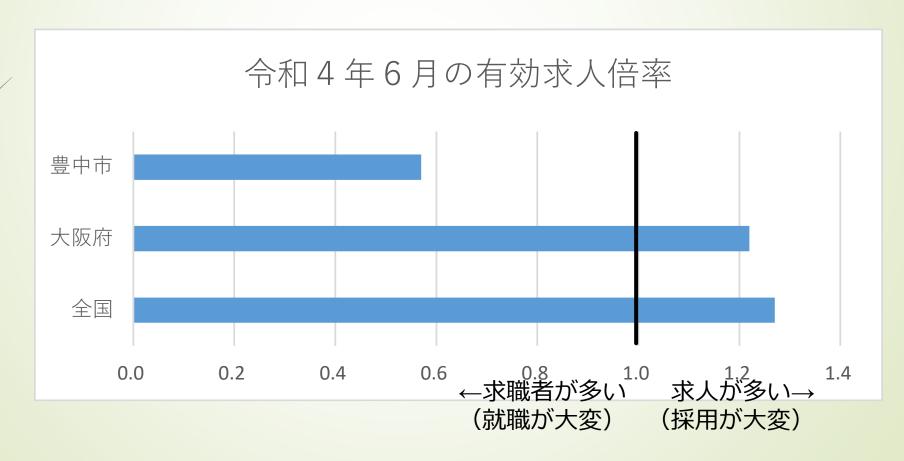
- ▶ 消費生活や雇用・労働施策などを担当
 - 消費者相談
 - 適正計量
 - ・労働福祉
 - ・就労支援
 - ・無料職業紹介
 - 多重債務者生活相談
 - ・生活困窮者自立支援
 - ・雇用創出
 - ・フリーラス支援
- 市内3拠点で事業を展開(令和4年時点)



新御堂筋

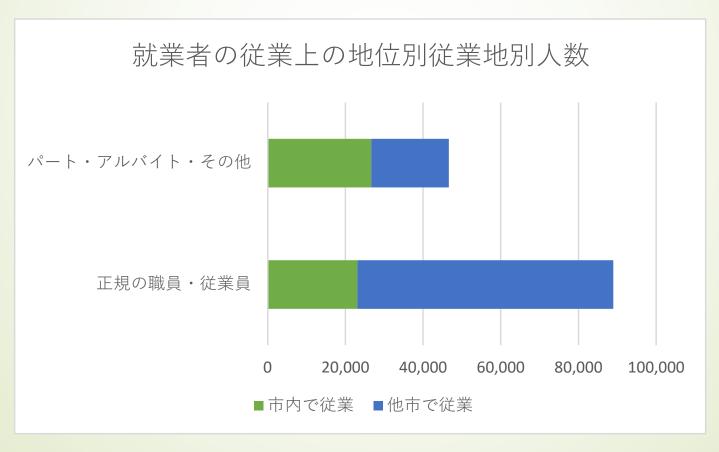
雇用・労働面からみた豊中市の状況

▶ 求職者に比べて求人が少ない⇒求職者が多い状況



雇用・労働面からみた豊中市の状況

▶ 市内で働いている人が少ない

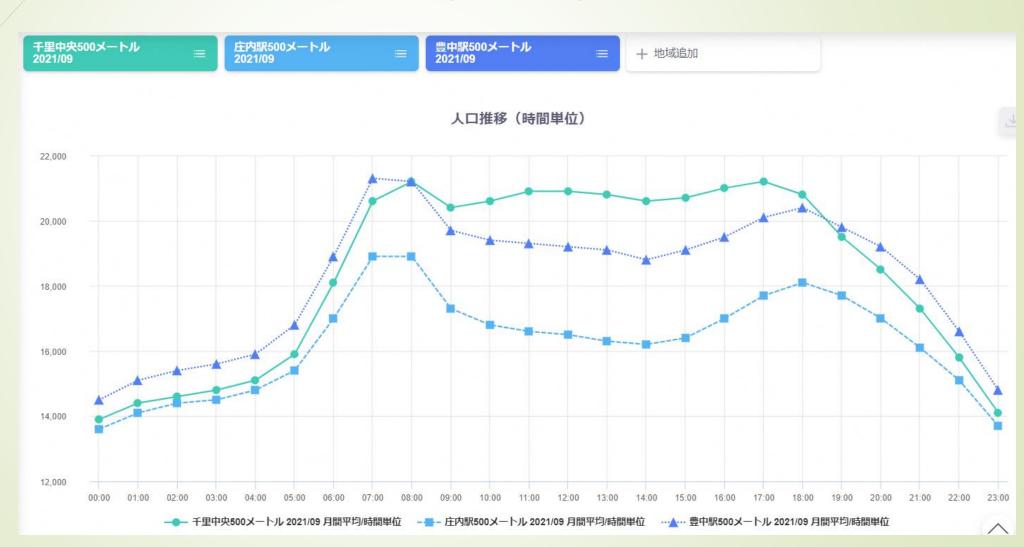


感じていた課題

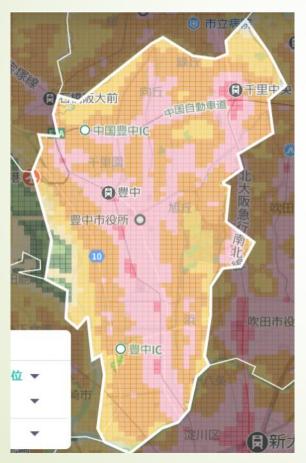
【求職者向けのイベントで、利用者のニーズに合った開催地を選択できているか】

- 求職者向けのイベントを実施しているが、自分たちで所管している施設での実施 となっており、利用者ニーズに合った開催場所を選択できていないのではないか
- 感覚的に、求職者の多い地域のイメージを持っているが、データ(根拠)が乏しく、裏付けがない状況で事業を実施している
- → 求職者が早期に仕事に出合えるためにも、対象者が利用しやすい場所での開催が 望ましい
- ⇒事業の対象となる求職者が、市内のどの地域にいるのか知りたい

並行して進めていた取り組み ~Yahoo DS INSIGHT(Place)のデータ活用~



並行して進めていた取り組み ~Yahoo DS INSIGHT(Place)のデータ活用~



市民全体



60歳代全体

西部地域は、ほぼ人が居ない。一方で、寺内には人が多い。



30歳代女性

統計ミクロデータの活用の目的

【ミクロデータ活用前の状態】

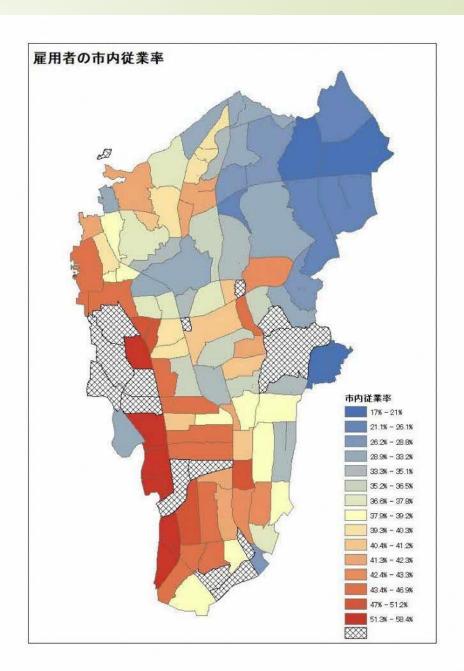
- ▶ 町目ごとの人口は把握
- ▶ 市全体の就業状態のデータも公表
- ► Yahoo DS INSIGHT(Place)のデータでは、就業状態は分からない

【ミクロデータの活用で狙ったこと】

- ▶ 町目ごとの、就業状態の特徴を知りたい
- ▶ 調査票情報を活用することで、町目と就業状態のクロス集計が可能

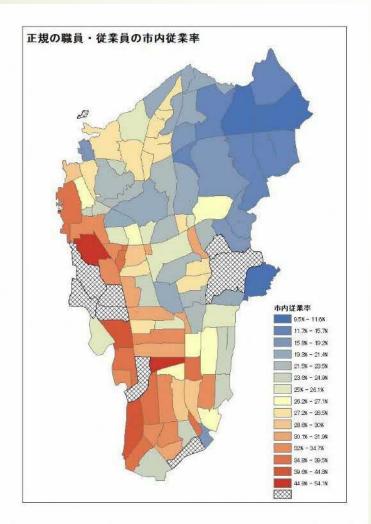
主な調査結果

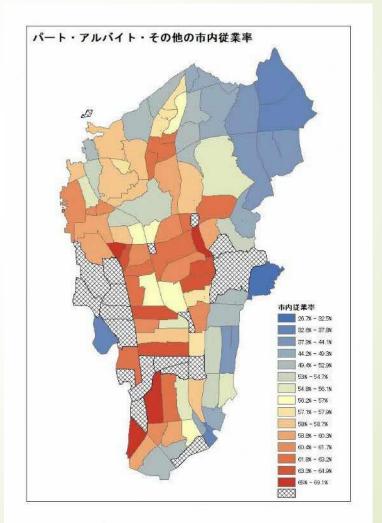
- 市内従業率は、緑地公園駅・千里中央駅周辺へは低い
- 南部は比較的市内従業率が高い



主な調査結果

- ▶ 東部・北東部の正規の職員・従業員の市内従業率は、ほぼ20%以下
- ▶ パート・アルバイト・その他では、市の中央部でも市内従業率が高くなっている





調査結果から得た知見

【正規で働く人】

- ▶ 東部、北東部の人は、市外に働きに行くのがほとんど
- 南部の人は、市内で働く人も多い
 - ⇒東部、北東部では、市内に限らない就業促進も検討
 - ※フリーランス、兼業・副業などを視野に
 - 南部の人には、市内への就業を促すことも効果的と考えれれる

得られたデータの活用

千里中央(市北東部)で直営の雇用セミナーを初めて開催





得られたデータの活用

▶ 庄内(南部)で、地元企業の面接会を開催



ミクロデータを活用してみて

【良かった点】

- 豊中市は市内にオンサイト施設があり、手軽に活用できるのはラッキー
- 自前でアンケート調査を実施しなくても、詳細なデータを取得できる※事業コストを大幅に低減できる
- その時の課題に合わせて、集計項目をカスタマイズできる

【次の活用に二の足を踏んでいる点】

- ▶ 事前の手続きが煩雑で、気軽には手が出しにくい
- 目の前の業務が忙しいと、データの収集・分析に時間をかけられない